<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> &アジア・新興国FXフラッシュ (2023年7月号)

2023/6/30 りそなホールディングス 市場企画部

りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは6月30日(金)9:00現在 ※休日の実績は前営業日

			29日現在 は5月末比)		7月の予想	見
USD	ドル・円 (円)	1	144.85	M	130.00 \sim	150.00
030	日米の7月金融政策派	央定の	重要度が高	まる		
	ユーロ・ドル (ドル)	1	1.087	M	1.05 ~	1.15
EUR	ユーロ・円 (円)	1	157.46	M	145.00 ~	165.00
	景気悪化が急速に進	むなた)、ECBの	タカ派	姿勢の持続性	に注目
	ポンド・ドル (ドル)	1	1.262	1	1.15 ~	1.35
GBP	ポンド・円 (円)	1	182.85	N	170.00 ~	190.00
	インフレ加速の衝撃	のなた	が利上げ継続	売と景	気後退の綱渡	りが続く
AUD	豪ドル・円 (円)	1	95.99	M	85.00 ~	105.00
NZD	NZドル・円 (円)	1	87.89	1	80.00 ~	100.00
INZU	RBA、RBNZの政策	こ不透	明感			
	日経平均 (円)	1	33,234	M	31,500 ~	34,000
株式	一段の円安進行に警	戒感も	5燻る中、_	上値が	重くなりやす	い
相場	NYダウ (ドル)	1	34,122	M	32,800 ~	34,800
	主要中銀のタカ派化	が警刑	なされ、上位	直の重	い展開が続く	
	日本 (%)	M	0.380	1	0.35 ~	0.45
長期	7月展望レポートでの	の物価	見通し更新	たに注目	3	
金利	米国 (%)	1	3.838	-	3.00 ~	4.00
	年内2回追加利上げ	示唆0)真意を見	亟め		

◆ 今月の注目ポイント

4週目の中銀ウィークに注目

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
金融政策	0	【FOMC】パウエル議長はECBフォーラムで連続利上げも選択肢に残すと発言。6月の堅調な米国経済指標を踏まえて、7月に利上げが実施されれば、9月の利上げも視野に入ることになる。市場はまだ懐疑的な見方を持っているが、徐々に見方の修正を迫られる可能性がある。 【日銀金融政策決定会合】足元(生鮮食品及びエネルギー除く)コアコアCPI等の物価指標が上昇し続けているが、植田総裁はECBフォーラムで政策の現状維持スタンスを示した。7月の展望レポートでは物価見通しが上方修正されるか次第でドル円相場に大きな影響を与える。 【ECB】7月の会合では追加利上げが見込まれている。一方、欧州の経済指標の下振れは景気の懸念材料。議論されている9月の利上げのヒントを探る。
景気	0	【中国経済】強い財政支援策がない中、中国経済は足踏み状態で市場の失望感が強まる。7月の経済中心の政治局会議で、追加の支援策があるかどうか注目される。

・アジア通貨見通し

人民元・円	-	19.50 ~	20.10	ルピー・円	1	1.72 ~	1.78
バーツ・円		4.00 ~	4.10	ウォン・円	V	10.50 ~	11.10
ルピア・田		0.02 ~	0 08		•		

▶ 今月の重要日程

3日 (月) 米 6月ISM製造業	18日 (火) 米 6月小売売上高
5日 (水) 米 FOMC議事要旨(6/13、1	14) 19日 (水) 欧 6月CPI
6日 (木) 米 6月ISM非製造業	21日 (金) 日 6月CPI
7日 (金) 米 6月雇用統計	26日 (水) 米 FOMC 〈結果発表〉
12日 (水) 米 6月CPI	27日 (木) 欧 ECB理事会〈結果発表〉
17日(月) 中 6月生産・小売・投資	28日 (金) 日 日銀金融政策決定会合

◎注意事項

<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> &アジア・新興国FXフラッシュ (2023年7月号)

今月の相場見通し① 為替(ドル・ユーロ)



円 ル

米ドル円

ドル円は下落

130.00 – 150.00 H

日米の7月金融政策決定の重要度が高まる

6月のドル円相場は、月前半は140円を挟んで一進一退となった後、日米の金融政策決定を 通過後は徐々に上昇ペースを強め、昨年11月以来の145円台をつける場面もあった。FRBが年 - 105 内2回の追加利上げを示唆する一方、日銀が現行政策の現状維持を決め、日米の金融政策 較差が意識されたことが背景。6月は米国以外でも中銀決定におけるタカ派サプライズが続き、日 ▶100 銀の緩和姿勢継続がグローバルに際立つ展開となった。

一方、FRBが追加利上げを示唆した後も市場の利上げ織り込みは高まらず、長期金利は寧ろ 低下する場面もあった。インフレ・雇用関連の経済指標が徐々に鈍化/悪化傾向となり、金融不 安の影響も測りかねる状況で2回の追加利上げを行えば景気後退を招く可能性を高めるとの懸 念があり、市場は半信半疑の状態。

また、国内では物価上昇が続いており、食品・エネルギーを除くベースでも前年比2%超の上昇 率が定着しつつある。7月末の日銀会合で物価見通しが上方修正される可能性は高まっており、 日銀の早期政策変更期待が再び意識される展開も予想される。145円を超える水準では昨年 10月以来の為替介入の警戒感も高まりやすく、上値が重くなりやすい。

ユーロ 1.25 160 -155 ユーロ円 (右軸:円) 1.20--150 1.15

2022



-130

2023

出所: Bloomberg

ユーロドルは下落

1.05- 1.15ドル

ユーロ円

ユーロドル

ユーロ円は下落

145.00 - 165.00円

景気悪化が急速に進むなか、ECBのタカ派姿勢の持続性に注目

6月のEUR相場は対USD、対JPYいずれも上昇した。6月のECB理事会では市場予想通り 135 0.25%の利上げが決定され、ラガルド総裁は記者会見にて次回7月の理事会でも利上げを行う 可能性が高いと発言した。利上げを見送ったFRBや緩和姿勢を続ける日銀との対比ではタカ派姿 勢が意識され、EUR相場の上昇に繋がった。

一方、ユーロ圏経済は昨年10-12月期に続いて1-3月期も2四半期連続のマイナス成長と 125 なり、定義上の景気後退入りとなった。足元で経済指標の下振れが顕著であり、景気低迷が長期 化する可能性がある。特にここまで経済を下支えしてきたサービス業の景況感も悪化し始めており、 長引くインフレとECBの利上げが与える実体経済への負荷が表面化してきた可能性がある。

ユーロ圏でも銀行の貸出態度厳格化は進行しており、銀行の不安の影響による金融引き締まり 効果は懸念されている。ECBのタカ派姿勢に変化の兆しが見えればEUR高修正の契機となろう。

◎注意事項

2020

2021

1.10

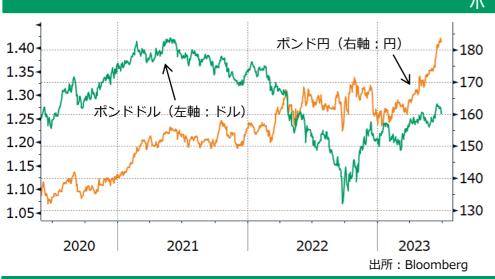
1.05

1.00

0.95

りそな マーケットフラッシュマンスリー

今月の相場見诵し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)





ポンドドル

ポンドドルは上昇

1.15- 1.35ドル

ポンド円

ポンド円は下落

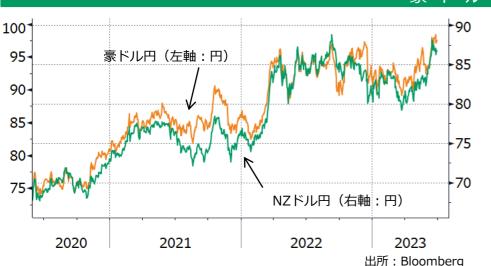
170.00 - 190.00 H

インフレ加速の衝撃のなか、利上げ継続と景気後退の綱渡りが続く

6月のGBP相場は対USD、対JPYいずれも上昇した。BOEは6月の会合にて市場予想である 0.25%利上げに対して0.50%の利上げを決定し、予想外の利上げ再加速となった。5月分のイ ンフレ指標が市場予想を大幅に上振れ、コアCPIの前年比伸び率が加速する結果となった。グ ローバルにインフレ率は鈍化に向かっているなか、更に上昇ペースを加速している英国の状況に BOEは危機感を強めていると見られ、0.25%へ減速していた利上げペースを再び0.50%へ加速 させた。市場では鈍化の兆しが見えない英国のインフレ率への警戒を強めており、更なる大幅な利 上げを織り込みつつある。緩和継続を続ける日銀との乖離は大きく、対JPYでは2015年以来とな る180円台をつける場面もあった。

一方、BOEの決定以降はGBPの上昇は頭打ち感も出ている。英国のGDPも低水準での推移 が続いており、景況感の悪化により景気後退へ転落する可能性も相応にある。一段の利上げが 更なる英国経済の負荷となることを勘案すれば、GBPは徐々に上値が重くなるだろう。

ドル・NZドル



豪ドル円

→ 豪ドル円は下落

85.00 - 105.00⊞

NZドル円

NZドル円は下落

80.00 - 100.00円

RBA、RBNZの政策に不透明感

6月のオセアニア通貨は対USD、対JPYでともに上昇となったが、月後半以降は頭打ち感も出 ており、特に対USDでは上値が重くなる場面が目立った。月初のRBA(豪中銀)理事会では 市場予想に反して0.25%の利上げを決定し、タカ派サプライズとなった。カナダ中銀に続いて4 月に利上げ停止を行ったRBAだが、インフレ率の高止まりを受け、5月に続いての利上げ継続と なった。利上げを見送ったFRBや緩和継続の日銀との対比でAUDの上昇へ繋がった。

一方、7月の政策決定に向けて、RBAやRBNZ(NZ中銀)に対する市場の利上げ織り込み は高まっていない。オセアニア経済は中国との経済的な繋がりが強く、年明け以降は中国の経済 再開の恩恵を受けやすかったが、足元では中国の景気回復ペースは急速に鈍化しており、中国 人民銀行は矢継ぎ早に利下げ対応を行っている。輸出の鈍化を通じてオセアニア経済へも下押 し圧力が強まれば、インフレ鈍化に繋がりやすい。いずれにせよ、グローバルに景気減速が強まって いくなかで、世界景気に敏感なオセアニア通貨は上値が重くなっていくだろう。

◎注意事項

りそな マーケットフラッシュマンスリー &アジア・新興国FXフラッシュ (2023年7月号)

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利



日経平均

見通し

→ 日経平均は下落

31,500 – 34,000円

一段の円安進行に警戒感も燻る中、上値が重くなりやすい

6月の日経平均も堅調に推移し、バブル後の戻り高値を一段と更新した。月の後半には各国中銀のタカ派姿勢が強まる中で上値が重くなる場面もあったが、金融政策較差が意識され円安が進むと底堅さを取り戻した。7月の日経平均は各国中銀がタカ派化する中で、景気への悪影響が懸念されることから上値の重い展開を予想する。急ピッチで上昇したドル円も為替介入や日銀の早期政策修正への警戒から上値が重くなると見られ、日経平均の上値を抑えよう。

NYダウ

 \triangle

ダウは下落

32,800 – 34,800ドル

主要中銀のタカ派化が警戒され、上値の重い展開が続く

6月のダウ平均は月前半は債務上限問題の妥結等を受け上昇したが、タカ派的なFOMCを受け月後半は上昇幅を縮小した。パウエル議長はFOMC後の発言でタカ派的スタンスを一段と深めており、7月FOMCでの利上げの有無に注目が集まる。インフレ・雇用関連の指標が軟化する中で、更なる利上げが行われれば先行きの景気悪化懸念が高まり、NYダウの上値は重い展開が続きやすいものと見る。

長期金利見通し



日本国債10年

₹

金利は上昇

0.35 - 0.45%

7月展望レポートでの物価見通し更新に注目

6月の国内長期金利は月後半にかけて大きく低下した。16日の日銀金融政策決定会合では現行の金融緩和策の継続が決定された。政策変更後に日本国債投資を狙っていた待機資金が国債市場へ流入したことも、金利低下の一因と考えられる。一方、6月に発表されたインフレ指標では、コアコアCPI(除く生鮮食品・エネルギー)が前年比+4.3%と大きく上振れた。日銀が7月の展望レポートで物価見通しを上方修正する可能性は高く、金利上昇要因となりやすい。

米国債10年

 \searrow

金利は低下

3.00 - 4.00%

年内2回追加利上げ示唆の真意を見極め

6月の米長期金利は概ね3.7%を挟んでもみ合いとなった。FOMCでは利上げを見送った一方、四半期に一度更新される政策金利見通しでは年内残り2回の利上げが示唆されるタカ派サプライズとなった。ただし発表後も市場では利上げ織り込みは高まらず、長期金利は寧ろ低下する展開となった。インフレ・雇用関連の指標は鈍化の兆しがあるなかで2回の追加利上げは景気後退を招く可能性があり、市場は半信半疑。7月末のFOMCに向けて真意を見極める時間帯。

©注意事項 お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、<u>弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。</u>また、ここ記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。<u>取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。</u>

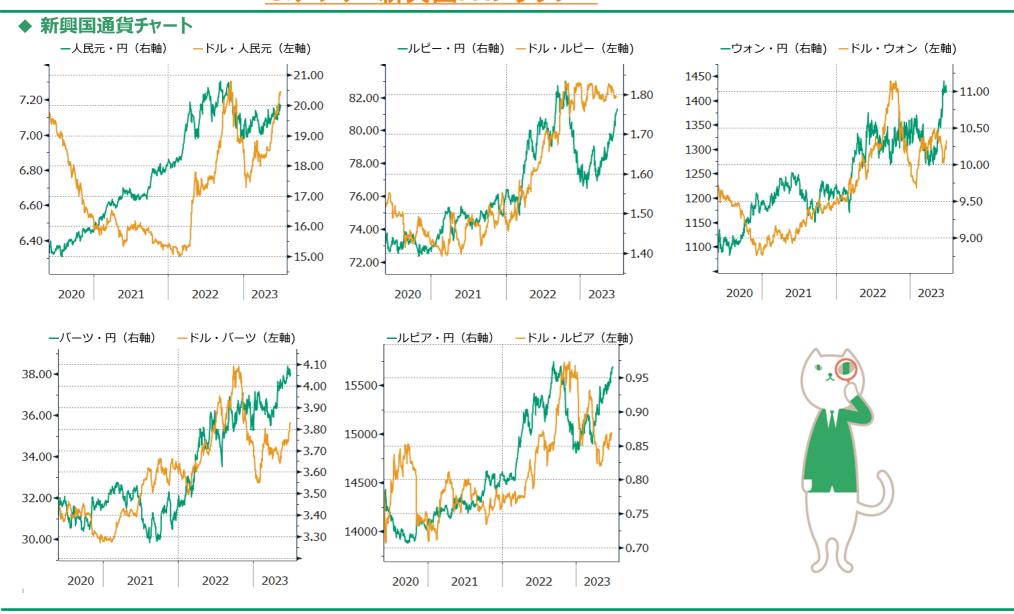
<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> <u>&アジア・新興国FXフラッシュ</u> (2023年7月号)

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨(アジア)

		6/29	6	月の相場推移		7月の予想	解説
中	人民元/円	19.92		19.43~19.97	\searrow	19.50~20.10	米中金利差拡大や中国政策支援への失望感から6月のドル人民元は上昇し、 年内の高値を更新した。中国人民銀行が徐々にけん制姿勢を強めているが、 米中金融政策スタンスの違いから7月のドル人民元は上昇基調が変わらないと
围	ドル/人民元	7.269		7.07~7.28		7.15~7.35	ネ中金融政策スタンスの違いからア月のドルス氏元は工弁基調が変わらないとみる。7月末の経済中心の政治局会議では追加的な景気支援策が見込まれ、ドル人民元の上げ幅を縮小させる可能性がある。
夕	バーツ/円	4.063		4.00~4.10	\searrow	4.00~4.10	6月前半のドルバーツはレンジ内で推移したが、政権移行をめぐる不透明感の 高止まりから下旬から上昇に転じた。政権移行が完了するまで海外投資家はタ イ資産に慎重なスタンスを維持する見込み。タイ中銀はタカ派姿勢を維持するが、
イ	ドル/バーツ	35.62		34.48~35.70		35.0~36.0	CPIが目標レンジに戻った以上、利上げ打ち止めの期待も大きい。FRBの追加利上げへの警戒からドル買い主導でドルバーツは7月に上昇しやすいとみる。
インド	100兆°7/円	0.965		0.923~0.967	\triangle	0.92~0.98	貿易黒字の下振れや欧米中銀のスタンスの違いから6月のドルルピアは上昇した。高金利環境の中、グローバルに景気減速の兆しが強まることで、コモディティ需要の重しとなり、インドネシアの貿易黒字はさらに縮小する可能性がある。7月
ネシア	ドル/ルピア	14,993		14,820~ 15,053		14,950~ 15,150	インドネシア中銀は政策金利を引き続き据え置きにする可能性が高い。一方、欧米中銀の追加利上げが視野に入る。ルピアは対ドルで下落するだろう。
イシ	ルピー/円	1.760		1.68~1.77	\triangle	1.72~1.78	6月は堅調なインド株の動きを好感し、ルピーも対ドルで上昇した。7月は欧米中銀の追加利上げの可能性があり、政策金利を据え置きにしたインド中銀との金融政策格差が意識され、ルピーの重しとなる。ただし、インド首相の訪米で米
ンド	ドル/ルピー	82.06		81.87~82.67	\Rightarrow	81.50~83.00	印関係が強化され、インドへの直接投資などの資金流入が好材料となる。従って ルピーは引き続き安定的な動きを見せるだろう。
韓国	100ウォン/円	10.989		10.48~11.15	\triangle	10.50~11.10	6月のウォンは半導体株高を好感し、月初から対ドルで上昇した。その後、米国の景気の堅調さとFRBのタカ派姿勢によるドル買い進行で上昇幅を縮小。韓国中銀が追加利上げを示唆しており、ウォンのサポート材料となる。貿易赤字の縮
玉	ドル/ウォン	1,318	Ø	1269~1,325	\Rightarrow	1,300~1,350	中最か追加や工がをがらしており、フォンのケバー「物かれてなる。 員場が手の幅 小も好材料になる。 ドル買いが進む可能性があるが、7月のドルウォンは総じて 安定的に推移するだろう。

◎注意事項

りそな マーケットフラッシュマンスリー &アジア・新興国FXフラッシュ (2023年7月号)



◎注意事項

<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> <u>&アジア・新興国FXフラッシュ</u> (2023年7月号)

年間為替見通し

		202	3年	202	24年	ポイント
		7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	ハイント
10.11	レンジ	120~150	115~140	115~140	110~135	FRBの利上げ停止と日銀の政策修正織り込みにより年
ドル円	期末値	135	130	125	120	後半にかけて徐々に上値が重くなる。
1-0	レンジ	0.90~1.15	0.90~1.15	0.90~1.15	0.90~1.15	コーロ圏の欠文化価はて作りが晒菜 レシュナンハーラ
ドル	期末値	1.10	1.12	1.10	1.08	ユーロ圏の経済指標は下振れが顕著となっており、景 気低迷が長期化する可能性がある。ECBはタカ派姿勢
1-0	レンジ	130~165	130~155	125~150	120~145	を継続しているが、難しい舵取りを迫られる。利上げ の終了が見え始めれば徐々に上値が重くなる。
円	期末値	149	146	138	130	シル、1720年にはの、これには、これには、主ているの。
ポンド	レンジ	1.00~1.30	1.00~1.30	1.00~1.30	1.00~1.30	スナク首相の下で混乱した経済や市場の立て直しを図
ドル	期末値	1.20	1.15	1.20	1.15	るが、インフレは高止まりしやすく、ファンダメンタ ルズ面での不安要素は残る。BOE内部でも見解の乖離
ポンド	レンジ	150~190	140~180	130~170	120~160	が見られ、経済・金融政策の不透明感から、当面上値
円	期末値	162	150	150	138	の重い展開を見込む。
ドル	レンジ	7.00~7.40	7.00~7.40	6.80~7.20	6.70~7.10	強い財政支援策がない中、中国経済回復が予想ほど強く
人民元	期末値	7.10	7.10	6.90	6.80	なく、中国金利の低位での推移もあり、人民元は弱含む。
人民元	レンジ	16.22~21.43	15.54~20.00	15.97~20.59	16.20~20.15	来年からインフレ上昇につれて中国金利が上昇し、人民 元を支えると見込む。
円	期末値	19.01	18.31	18.12	17.65	
豪ドル	レンジ	80~105	80~105	75~100	70~90	グローバルに景気減速に向かっていくなかで、世界景
円	期末値	91	88	84	80	気に敏感なオセアニア通貨は上値が重くなりやすい。
タイバー	レンジ	3.30~4.40	3.30~4.40	3.40~4.50	3.50~4.50	観光業の回復から当面の間堅く推移。年末に日銀政策
ツ円	期末値	3.91	4.00	3.97	3.93	修正織り込みや欧米景気悪化で対円で下落を予想。

◎注意事項

<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> <u>&アジア・新興国FXフラッシュ</u> (2023年7月号)

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
7/3(月)		6月ISM製造業景況指数	(中)6月製造業PMI
7/4(火)	10年債入札	(独立記念日)	(豪) 準備銀行理事会
7/5(水)		5月製造業受注	
		FOMC議事要旨	
7/6(木)	30年債入札	5月貿易収支	
		6月ADP雇用統計	
		6月ISM非製造業景況指数	
7/7(金)	5月家計調査	6月雇用統計	
	5月毎月勤労統計(速報)		
7/10(月)	6月景気ウォッチャー調査		(中) 6月CPI
7/11(火)	5年債入札	3年債入札	(独)7月ZEW景気指数
7/12(水)	5月機械受注	10年債入札	(中) 6月貿易統計
	6月企業物価指数	6月СРІ	
7/13(木)	20年債入札	30年債入札	
		6月PPI	
7/14(金)			

	日本	米国	その他
7/17(月)	(海の日)	7月NY連銀製造業景気指数	(中) 4-6月期GDP
			(中)6月生産・小売・投資
7/18(火)		6月小売売上高	
7/19(水)		20年債入札	
		6月住宅着工・許可件数	
7/20(木)	6月貿易統計	6月中古住宅販売	
		7月フィラデルフィア連銀製造業 景気指数	
7/21(金)	6月消費者物価指数		
7/24(月)		2年債入札	(欧)7月PMI(速報値)
7/25(火)	40年債入札	5年債入札	(独)7月IFO企業景況感指数
		7月消費者信頼感指数	
7/26(水)		6月新築住宅販売	
		FOMC(結果発表)	
7/27(木)	2年債入札	4-6月期GDP(速報値)	(欧)ECB定例理事会
		7年債入札	
7/28(金)	植田日銀総裁定例会見	6月個人所得・消費支出	
	日銀金融政策決定会合(結果発表)		
7/31(月)	6月鉱工業生産		(中) 7月PMI
	6月住宅着工件数		
	•		



<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> &アジア・新興国FXフラッシュ (2023年7月号)

中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

[5/26~6/1]

◎外商投資企業の新設数、1Qは7.6%増

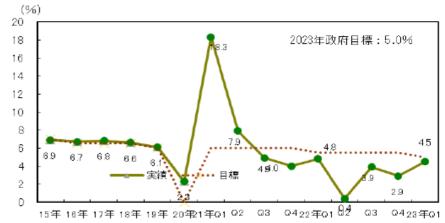
中国国家市場監督管理総局によると、全国で今年第1四半期に設立された外商投資企業の数は前年同期比7.6%増の1万1,000社だった。新設企業はサービス業に集中した。第3次産業が全体の9割以上を占める1万192社で、第1次産業は56社、第2次産業は841社。第3次産業のうち宿泊・飲食は22.0%増、ビジネス・リースは13.9%増、運輸・倉庫は12.8%増、卸売り・小売は12.4%増だった。資本地域別で見た第1四半期の設立数は米国、欧州連合(EU)、日本、韓国が上位を占めた。

$[6/2\sim 8]$

◎地方中小銀が預金金利引き下げ、最大0.3P

中国の地方中小銀行が預金金利を直近で引き下げている。一部銀行は0.3ポイントの大幅な引き下げを実施。中国では昨年から大手銀を中心に金利引き下げの波が起きており、地方中小銀行も全体の流れに追随した。各行の金利は一年定期で2%前後、3年定期は3%台前半になっている。金利引き下げの背景にあるのは利ざやの縮小。中国人民銀行が低金利政策を続ける中、銀行の貸出金利は近年下落を続けており、利ざやは過去最小水準となっている。

中国におけるGDP増加率の推移





<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> &アジア・新興国FXフラッシュ

(2023年7月号)

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

$[6/9 \sim 15]$

◎5月CPIは0.2%上昇、4カ月ぶり伸び拡大

中国国家統計局は9日、2023年5月の消費者物価指数(CPI)が前年同月比で0.2%上昇したと発表した。上昇率は前月から0.1ポイント拡大し、4カ月ぶりに伸び拡大を記録した。食品価格の上昇が物価を押し上げた。一方、サービス価格などは伸び悩み、CPIの上昇率は全体として低水準に留まった。食品価格は1.0%上昇し、上昇率は前月から0.6ポイント拡大した。非食品価格は0.1%の上昇で、前月から横ばい。工業消費品は1.7%下落、下落率は0.2ポイント拡大した。

$[6/16\sim21]$

◎ 人民銀0.1%利下げ、10カ月ぶり

中国人民銀行(中央銀行)は20日、金融機関の貸出金利の目安となる貸出基礎金利(ロープライムレート、LPR)の1年物を3.55%とした。これまでの3.65%から0.1%引き下げた。利下げは2022年8月以来10カ月ぶり。景気回復に減速感が出ている中、金融緩和を進めて景気を刺激する。住宅ローン金利の目安となる5年物以上も0.1%引き下げ、4.20%とした。5年物以上の引き下げも10カ月ぶり。景気回復が順調に進んでいなく、直近月は製造業の景気指標が伸び悩んでおり、企業の投資意欲が高まっていないことが背景にある。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2022/7	2022/8	2022/9	2022/10	2022/11	2022/12	2023/1	2023/2	2023/3	2023/4	2023/5
実質GDP成長率	%	-	-	3.9	-	-	2.9	-	-	4.5	-	-
消費者物価上昇率	%	2.7	2.5	2.8	2.1	1.6	1.8	2.1	1.0	0.7	0.1	0.2
都市部調査失業率	%	5.4	5.3	5.5	5.5	5.7	5.5	5.5	5.6	5.3	5.2	5.2
輸出額	10億ドル	332.3	315.0	321.7	298.1	295.2	306.1	292.2	213.8	315.5	295.4	283.5
輸入額	10億ドル	230.1	234.7	237.6	213.2	226.1	228.1	193.2	197.5	227.3	205.2	217.7
経常収支	100万ドル	-	-	298,739	-	-	401,855	-	-	82,000	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,104.1	3,054.9	3,029.0	3,052.4	3,117.5	3,127.7	3,184.5	3,133.2	3,183.9	3,204.8	3,176.5
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	6.73	6.80	7.02	7.21	7.17	6.98	6.79	6.84	6.89	6.89	7.00

※ 対ドル為替レート: 期末又は月末値 主要政策金利: 1年物貸出基準金利

出所: Bloomberg

<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> &アジア・新興国FXフラッシュ (2023年7月号)

"上海下午茶"(上海からティータイム)

りそな銀行上海駐在員事務所

○手ぶらで決済もできる?

最近、あるニュースを見ました。WeChatは新しい決済機能を開発し、 それは手のひらで決済するということです。ユーザーはまず個人の WeChatアカウントを端末と紐づけし、掌紋を登録しておく必要があ ります。

そして支払う時、端末のスキャナーに手をかざすと、決済を完了させることができます。また顔決済よりも、手のひらスキャンのほうが安全で、精度もより高いといいます。掌紋認証では、血管のパターンを読み取るため、その情報が流出したり、偽造されたりすることがないということです。

5月23日、北京の地下鉄大興空港線で決済が導入されました。お客さんは乗車する前に、同地下鉄線の各駅にある券売機で掌紋を登録し、WeChatのミニプログラム「北京地下鉄・手のひらスキャン乗車」と紐づけしておけば、その機能が利用できるようになります。 乗客は地下鉄に乗る際、手のひらスキャン表示がある改札機を利用する必要があり、降車後改札機から出ると、スマホに決済通知が送られ

便利な決済方法ですね。中国の決済手段の変化スピードの速さに本当 に関心しました。上海の地下鉄でもいつか導入されればよいなと思い ます。

○上海の梅雨入り

6月17日、上海は正式に梅雨に入りました。今年の梅雨入りは例年より遅れましたが、雨の量は多いです。

梅雨入り当日は暴風雨で、一日中雨でした。ちょうどこの日は学生の高校入学試験日で、多くの親は自分の子供を迎えるために、雨の中でずっと待っていました。梅雨は一年の中で、一番いやな時期で、毎日雨で、何もかもじめじめして、通勤も通学も不便になり、気持ちが快適ではないです。

ただひとつ楽しみがあるのは、梅雨という時期しか食べられない果物があります。それはヤマモモです。実家の方は山があり、野生の山桃を摘んだことがあり、この甘酸っぱい味は本当に魅力的です。

梅雨の時期は湿度が高くて、あまり食欲がないですが、山桃を食べると、 食欲が促進されます。今年もいっぱい食べたいです。



ます。

<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> &アジア・新興国FXフラッシュ (2023年7月号)

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆国内経済、回復基調を維持

タイ中央銀行の2023年4月の経済報告によれば、タイ経済は回復基調を維持しているとの 見方を示した。特に国内外の旅行者の増加に伴い、個人消費が拡大し、サービス部門の改 善が続いている。民間消費指数は前年同月比7.6%増となった。一方、鉱工業生産指数は同 8.1%下落し7ヵ月連続のマイナスとなった。ハードディスク駆動装置(HDD)、鉄鋼、家 具等の生産が減ったことが背景にある。民間投資指数は前年同月比0.0%となった。建設投 資は拡大したが、機械・設備投資が低調だった。

◆2023年第1四半期のGDP、2.7%増加

タイ国家経済社会開発委員会(NESDC)が発表した2023年第1四半期(1~3月)の国内総 生産(GDP)成長率は前年同期比2.7%増加した。2022年第4四半期の1.4%から加速した。だった。前年同月比で7カ月連続のマイナス成長だった。2023年1〜4月の輸出額は前年同 増加の要因として、サービスの輸出が前年同期比87.8%と大きく伸びたことに加え、民間 消費や政府・民間投資の伸びが挙げられた。産業別で、農水畜産業分野は7.2%増、非農業

分野は2.3%増だった。非農業のうち、工業が3.0%のマイナス成長だった一方、サービス 業は5.2%増と健闘した。今年通年のGDP予測は2.7~3.7%増に据え置いた。

◆2023年5月CPI、前年同月比0.53%上昇

タイ商務省が発表した5月の一般消費者物価指数(CPI)は、前年同月比0.53%上昇し、過 去21カ月で最低の水準となった。分野別では、食品・飲料が前年同月比3.99%上昇したが、 非食品が同1.83%下落した。2023年1~5月CPI平均値は前年同期比2.96%上昇となった。

◆2023年4月輸出額、7ヵ月連続のマイナス成長

タイ商務省によると、2023年4月の輸出額は前年同月比7.6%減の217億2,320万米ドル 期比5.2%減の920億330万米ドルだった。農産物・加工品の輸出は前年同月比8.2%増加 したが、主要工業製品は同11.2%減少した。

主要経済指標

く月次データン

		()1/()										
項目	単位	2022/7	2022/8	2022/9	2022/10	2022/11	2022/12	2023/1	2023/2	2023/3	2023/4	2023/5
実質GDP成長率	%	-	-	4.6	-	-	1.4	-	-	2.7	-	-
消費者物価上昇率	%	7.6	7.9	6.4	6.0	5.6	5.9	5.0	3.8	2.8	2.7	0.5
失業率	%	1.4	1.4	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	-
輸出額	100万ドル	23,629	23,633	24,919	21,772	22,308	21,719	20,250	22,376	27,654	21,723	-
輸入額	100万ドル	27,290	27,848	25,772	22,369	23,650	22,753	24,899	23,490	24,936	-	-
経常収支	100万ドル	-4,036	-3,579	-69	511	-551	967	-2,149	1,332	4,779	-476	-
外貨準備高	10億ドル	220.0	215.0	199.4	201.9	210.7	216.6	225.5	217.4	224.5	223.5	220.8
主要政策金利	%	0.50	0.75	1.00	1.00	1.25	1.25	1.50	1.50	1.75	1.75	2.00
対ドル為替レート	バーツ	36.4	35.9	37.0	37.9	36.4	34.8	33.2	34.1	34.5	34.3	34.3

※ 対ドル為替レート: 期末又は月末値 主要政策金利:タイ翌日物レポ金利 出所: Bloomberg

◎注意事項

<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> &アジア・新興国FXフラッシュ (2023年7月号)

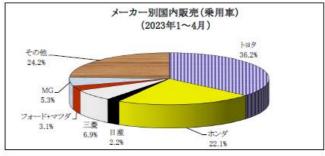
タイにおける自動車産業の動向

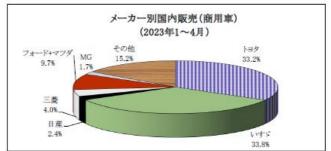
りそな銀行バンコック駐在員事務所

			2020年	2021年	2022年	2023年 (1-4月)	前年同期比 (%)	4月
【台數】	0.00	(台)				,,,	, , , , ,	-
四輪	生産台数	乗用車	542,437	599,844	600,839	219,870	127.1	40,366
		商用車	884,533	1,085,861	1,282,676	405,553	95.4	77,270
		合計	1,426,970	1,685,705	1,883,515	625,423	104.6	117,636
	国内販売台数	栗用車	274,789	251,800	265,069	97,769	101.6	20,203
		商用車	517,357	507,319	584,319	178,834	90.1	39,327
		合計	792,146	759,119	849,388	276,603	93.9	59,530
	輸出台数	8 9	735,842	959,194	1,000,256	353,632	118.4	79,940
二輪	生產台数	- 20	1,615,319	1,780,654	2,015,940	721,122	116.3	140,444
	国内販売台数		1,516,096	1,606,481	1,792,016	630,525	110.6	123,959
	輸出台数	20	727,152	965,967	1,034,840	304,574	90.5	63,375
【完成車	輸出金額】	百万パーツ)						
四輪			410,912	561,147	619,348	353,632	118.4	79,940
二輪		- 1	85,802	75,985	73,729	218,286	122.9	50,164

		178,834	1/4
	生産台数625,423台	353,632	2023年(1-4月)
生產台数1,883,515	1,000,256	55,069 584,319	2022年
生產台数1,685,705台	959,194	1,800 507,319	2021年
生產台数 ,426,970台	735,842	4.789 517,357	2020年
2,000,000	1,000,000 1,500,000	500,000 1	0







◎注意事項